

『もりおかの短歌』冬の部

一般部門 優秀賞十首

もりおかの石割桜 いしわりぎくら

真っ白き雪の華つけ ましろゆきはな

遠き春待つ とおはるま

盛岡市 鈴木 充

萌え初めし通りの空の大柳 もそとおそら おおやなぎ

誘われ来れば さそく

啄木の家 たくぼくいえ

盛岡市 佐藤 忠行

年尾の忌 としおき

迎へるたびに想ひ出す むかおもだ

盛岡去りし七年前を もりおか ななとせまへ

青森県青森市 鈴木 操

モノクロの景色けしきの中のなか

つらら越ごし

道みちゆく人の眼鏡ひとめがねも曇くもる

盛岡市 赤坂 昌信

雪搔ゆきかきで始はじまる朝あさを

運命うんめいと思おもひて

しばし冷氣れいきす吸こい込こむ

盛岡市 中島 久光

積つむ雪ゆきの下したで芽吹めぶく日ひ

待まつ樹々ききにやさしき陽ひざし

盛岡もりおかに來きて

千葉県鎌ヶ谷市 山本 咲江

なかつがわ
中津川

ひとぼん ひとばん ひとばん
一晩ゆきの雪ゆきふつくらと

こ 小ガモの朝餉あさげを見守みまもるように

盛岡市 郷家 美磨

はじ
初めてのさんさ踊りに
おど

みりよう
魅了され

むちゆう てびようしにさい むすめ
夢中で手拍子二歳の娘

岐阜県可児市 有田 峻

もりおか
盛岡のしばれる街を
まち

きたかみ なが つよ
北上川の流れは強く

す ひとつよ
住む人強し

盛岡市 小林 貴史

とりわた しゅうほう しろ
白鳥渡り秀峰ま白にズームイン

きび ふゆ
厳しき冬は

まち つつ
街を包みぬ

盛岡市 堀米 公子

冬の部（ジュニア部門） 優秀賞

該当なし

【講評】

一般部門

コロナ禍もワクチン接種がゆきわたり、平穏な日常に戻れることを疑わずにいたけれど、何かスツキリしない。人々の行動も消極にならざるをえない現実に心が塞ぐ。このたび皆様から届いた作品は65首と過去に例がない程の少なさ。ジュニア部門は1首もなく寂しい現実には直面した。北に帰る白鳥の群れを送りながら春の近いことを実感する。禍事のない春よ来い!!

令和四年三月選 冬の部

投稿数 六十五首

選者 松田 久恵